

## 令和5年度 第4回摂津市子ども・子育て会議 要点録

日 時：令和6年3月26日（火） 14：00～16：00

場 所：摂津市役所新館7階講堂及びオンライン

出席者：米澤 好史会長、山本 美来委員、笠松 彩夏委員、国重 美穂委員、峰松 由紀子委員、  
島内 嘉紀委員、杉山 猛委員、園田 裕紹委員、川上 三千代委員、杉山 真理子委員、  
川口 弘美委員、濱口 恵子委員 計12名

事務局：11名

### 案件1 委嘱状の交付

摂津市子ども・子育て会議条例第4条の規定により、米澤委員を会長に、榎谷委員を副会長にそれぞれ選出した。

### 案件2 摂津市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査について（資料1）

【事務局】－案件について説明－

【コンサルタント事業者】－調査結果速報について説明－

【委員】 アンケートの回収率が3割に満たないという結果はあまりにも少ないと思う。今回の調査はスマートフォンから回答できるようになっており、前回の紙媒体での回答に比べて答えやすいようになったはずだが、それでも回収率が全体の3割に満たないとすると、一部の方々の意見になってしまうのではないかと。どのようにすれば回収率をあげることができるのかということが一番大きな課題だと思う。

長年摂津市の保育に携わっている中で、以前は、摂津市で生まれ育ち、祖父母が近所に住んでいるという環境から随分変わってきていると感じた。大人になって一旦摂津を離れたとしても、子どもができたならまた帰ってくるという時代が摂津市は長かったが、新しい大きなマンションが建って、他の地域から転入してきた世帯が増え、お母さんやお父さんの孤立化がじわじわと進んでいると思う。以前であれば、摂津で育ってきた人は近隣の知人に気軽に相談をすることができたが、そういうものがどんどん減ってきた。転入世帯が孤立化しないような施策を考えていかないといけないと強く感じた。

【事務局】 一般的な調査としての回収率といった点では、比較の際立って低い結果ではないという認識である。ただ、前回5年前の調査、またその前10年前の調査と比べると、回収率がだんだん下がってきているのは事実である。アンケートの設問数が多く、回答いただく方の負担を少しでも軽減すべく今回はインターネットのみの回答とさせていただいたが、我々の期待していた回収率よりも下回る結果となり、課題であると認識している。

【委員】 共働きの世帯が多くなってきている中で、いくらインターネットで簡単に回答ができるとはいえ、回答する問題数やページ数が多いとどうしても負担になってしまうのではないかと感じる。アンケート実施前に設問をより精査することが必要ではないかと思う。

【事務局】 まずは速報値ということで、本会議で委員の皆様方に結果を示させていただいているが、地域におけるクロス集計等も行う予定となっており、その結果から見えてくる課題等もあるかと考えている。その点についても、また改めて情報共有させていただきたい。

【委員】 学童保育の利用の比率について、口頭での説明があったから理解できたが、学童保育の利用率は上がってきている認識である。注記をいれていただくか、表現の仕方を変えていただきたい。学童保育に対するニーズ等に大きく影響してくると思う。

【コンサルタント事業者】

小学校低学年と高学年、それぞれで利用状況がどうかというところをこのグラフでは一緒になっているが、別々にして提示させていただければと思う。

【委員】 「子育てする中でどのような支援・対策を有効と感じているか」という点について、子育てについて肯定的に捉えていらっしゃる方々の数字と、マイナスもしくはニュートラルに捉えていらっしゃる方々の数字を見ても、「保育サービスの充実」に関しては、あまり差がない点が大事だと思う。子育てを肯定的に捉えている方も、マイナスに捉えている方も、保育サービスを向上させるということは、どちらにも有効に作用するものだという点について、私自身は確信を持っていたところだったが、改めて保育のサービスの充実・維持に関しては、摂津市の施策としてもお力添えをお願いしたい。

クロス集計をされるというお話がありましたが、SRCから見て、他の市のデータを出せないのは承知した上で、摂津市の何か特徴的なところで見えているものがあれば教えてほしい。また、そのあたりをうまく表出できるようなクロス集計の仕方としてどのようなものがあるのかについてもお聞きしたい。

【コンサルタント事業者】

他市との比較で特徴的なところに関して、この調査に関しては、国が示している調査票を元にしており、他の自治体でも同時期に実施し、同様に今後公開される。その点で言うと、公開している自治体と比較することは可能かと思うので、その際に具体的にお示しできればと思う。現時点で特徴的なところを少し申し上げると、委員からのご意見にもあったが、他市町から摂津市に移り住んだ方が多く見られ、「地域の人によって支えられていることを感じる」人が大きく減少している。摂津市で子育てをしたい理由として、どこの自治体でも「親が近くに住んでいる」や「親しい人がいる」、「生まれ育ったところ」が高い数値となっていますが、ここがやや減少傾向にあるのは、他の市町から住まわれている方が多いためだと思われる。新しく摂津市に来られた方と長く住ま

れている方の視点も踏まえて、今後もクロス集計などで地域性が分かるようにさせていただければと思う。

【委員】 クロス集計について、フルタイムで働いている人の相談先で、「近所の人」というのが減っているが、フルタイムで働いていると、近所の人と会う機会が少ないこともあるのではないかなと思うので、その辺もクロス集計で分かるようにお願いしたい。

【事務局】 どこまで細かく集計できるかというのは、事務局とコンサルタント事業者で検討させてもらいたい。

【委員】 就学前児童が平日に定期的に利用している事業について、認定こども園が増えて認可保育所が減っているが、摂津市内では保育所から認定こども園に移行したので、これは当然のことである。前回の調査時点から保育所と認定こども園の数が全く全然異なっているので、何か注記を入れてもらったほうがいい。

【委員】 先程、他市との比較ができるというお話を伺ったが、もし可能であれば、摂津市と似たタイプの都市を意図的に見ていただけるとありがたい。地方の人口減少地域と言われている地域であれば、データとしては比較しづらいところがあると思うので、その点だけ留意いただければありがたい。

【会長】 たくさんご意見をいただく中で浮かび上がってきたのは、面倒を見てもらえる人、相談できる人がいないという人が増えているということである。移住してきた方が多いので、地域の支え合い感がまだ希薄であり、そこは行政がしっかり支援していくポイントであると感じた。今回の調査は回答数が少なかったというところはあるが、意義のある調査になったのではないかと思うので、今後の計画策定にぜひ生かしていただきたい。

### 案件3 3. 保育施設の利用定員の確認及び小規模保育事業の認可について（資料2）

【事務局】 - 案件について説明 -

（委員からの意見なし）

### 案件4 その他

【会長】 予定した案件が全て終了した。事務局から報告事項等はあるか。

【事務局】 次回の会議につきましては、まだ時期が決まっていないので、開催が決まり次第ご案内させていただく。なお、令和6年4月1日付の機構改革に伴い、子ども・子育て会議の所管課が、現在のこども教育課からこども政策課、旧の子育て支援課に変更と

なるため、次回以降の会議については、こども政策課からご案内させていただく。

【会長】 以上をもって子ども・子育て会議を終了とさせていただく。  
皆様、ありがとうございました。